

介護老人保健施設 手稻あんじゅ

「職員インタビュー」 あなたの「仕事に対する想い」を教えてください

はじめに

高齢化社会が進む中、介護の現場で働く職員の声に耳を傾けることは重要です。今回は、介護老人保健施設で介護主任として活躍される五十嵐幹（いがらし みき）さんにお話を伺いました。介護職員として介護老人保健施設6年、介護老人福祉施設6年のキャリアを持ち、介護福祉士と介護支援専門員の資格を持つ五十嵐さんが語る、介護の現場のリアルな体験と想いをお届けします。

介護への道のり——安定を求めて選んだ職業

五十嵐さんが介護の道を選んだのは、今から約25年前の就職氷河期の時代でした。「人と関わる仕事に就きたい想いにはありましたが、当時は就職氷河期でした。介護が安定した職業だと思ったことが正直な動機です。2025年には高齢者の人数がピークになるとニュースで取り上げられていて、将来性のある分野だと感じていました」当時は介護職員の就職人気が高く、札幌圏内では就職倍率が高い状況でした。地元の札幌を離れ、十勝管内の介護老人保健施設で働き始めた五十嵐さんは、そこで初めて介護老人保健施設がリハビリ施設であることを知ったといいます。「恥ずかしながら、介護の仕事を始めたときは、介護老人保健施設や介護老人福祉施設など施設ごとの機能を知りませんでした。就職ができて、「ほっと」したことを覚えています」

「人と関わる仕事に就きたい」
介護老人保健施設で働く
介護主任の想い



介護主任
五十嵐 幹 さん

もっとも大切なのは
職員同士の
良好な関係性

現場の現実——夜勤での厳しいスタート

専門学校での実習である程度のイメージは持っていた五十嵐さんでしたが、初夜勤の現実には想像以上に厳しいものでした。

「夜勤は少ない職員数で勤務するため、慣れるまでの半年間は大変でした。当時は介護職員一人ですべての入所者様のお世話をしていました」現在の業務は、日勤（9:00～17:30）と夜勤（17:30～翌9:30）を基本とし、早番や遅番が重複する勤務体制です。日勤はフロア対応と入浴対応に分けられ、水分補給、食事介助が主な業務となります。夜勤では就寝準備から始まり、床ずれ予防のための体位変換、翌日の入退所準備まで幅広い業務を担当しています。

チームワークと観察力——多職種連携の重要性

介護老人保健施設では介護、看護、リハビリ、相談の各部署がチームを組んで支援を行っています。五十嵐さんが最も重要視しているのは職員同士の良好な関係性です。

「パソコンでの記録を活用して情報共有していますが、もっとも大切なのは職員同士の良好な関係性です」入所者様との関わりでは、細かな観察を心がけています。「ご様子をよく見ることです。言葉で、ご自身を表現することが難しい方もいらっしゃいます。普段のご様子との違いに敏感になるためには、過ごし方をよく見るようにしています。また、どんな表情で、どんなことをお話しするのかを意識しながら入所者様と関わりを持っています」



介護老人保健施設 手稲あんじゅ

「職員インタビュー」 あなたの「仕事に対する想い」を教えてください

やりがいと困難——入所者様の笑顔が最大の喜び

介護の仕事で最も嬉しい瞬間について、五十嵐さんは温かい表情で語ります。

「入所者様が元気にお話しをしてくれるときに嬉しいです。普段、あまり笑顔をみせていただけない方が笑ったときに、介護の仕事をしていて良かったなと思います。できるだけ楽しい時間を入所者様と共有したいです。そのためにも、私自身も元気であることを意識しています」

一方で、最も大変なのは入所者様の状態悪化に直面することです。

「入所者様は、身体の動きが良くなる方もいれば、調子を崩す方もいらっしゃいます。どのような支援が入所者様にとって良いのかを悩むことがよくあるなかで、他職種でよく話し合い、チームで乗り越えています」

成長の実感——特定技能職員との協働から学んだこと

45歳になった五十嵐さんにとって、最近の大きな成長体験は外国人職員との協働でした。

「昨年12月から、インドネシア出身の特定技能職員3人と一緒に働いています。当初は日本語の理解が不十分で、お互いにコミュニケーションに苦慮しながら業務指導をしていました。半年以上経った現在、3人は徐々に業務を覚え、できる仕事が増え、日本語の理解も深めてきています。特定技能職員の成長をみると、そこにに関わり、指導をした自分自身も成長できたと思います」

この経験から、分かりやすい言葉で簡潔に業務指導することの重要性和楽しさを実感したといいます。

私自身も元気であることを意識しています！



**長く勤めていくためには、
身体を壊さないことが
大切です。**



求職者へのメッセージ——介護老人保健施設で働く魅力と心構え

現在は介護主任として、職員が各々の力を発揮できる体制作りに取り組んでいる五十嵐さん。今後も介護の仕事が続けていくため、体力の維持に励み、過度に身体へ負担が掛からない働き方をすることが目標です。

「介護老人保健施設は、リハビリを行って自宅に帰るための準備をすることが目的の施設です。ご自宅に帰るための支援に興味のある方、介護に興味のある方にとって、適職と思いますので、一緒に働いてみませんか？」

求められる人材像については、「チームでお仕事をしますので、協調性が必要だと思います。ただ、意見を言うときは、しっかり伝えられることも大切です」と話します。また、働く上での注意点として「身体的な介助がたくさんある仕事です。長く勤めていくためには、身体を壊さないことが大切です。特に腰痛予防には気に掛けてほしいと思います」とアドバイスしています。

終わりに——仕事への感謝の気持ち

インタビューの最後に、五十嵐さんが最も大切にしている価値観について伺いました。

「私の仕事は、入所者様がいないと成立しません。入所者様が仕事を行わせてくれている感覚は忘れてはいけないと思っています」この言葉からは、介護職員としての深い責任感と、入所者様への感謝の気持ちが伝わってきます。少子高齢化が進む中、介護の現場では人手不足が深刻な問題となっていますが、五十嵐さんのような経験豊富な職員の存在が、質の高い介護サービスの提供を支えています。

介護の仕事は確かに身体的にも精神的にも大変な面がありますが、入所者様の笑顔や成長を間近で見られる、やりがいのある仕事でもあります。五十嵐さんの体験談が、介護の現場で働くことを考えている方々の参考になれば幸いです。